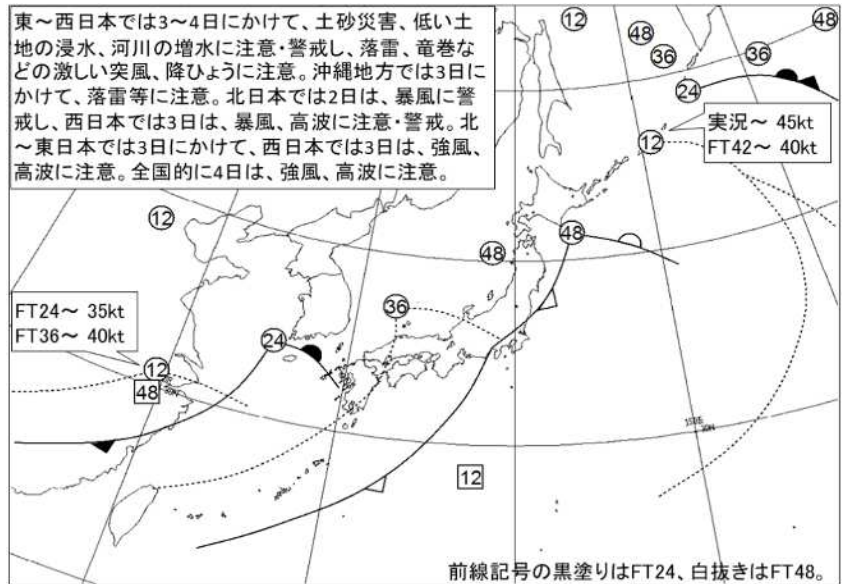


1. 実況上の着目点

① 500hPa 5400m以下で-21℃以下の寒気を伴う寒冷渦に対応した北海道東方海上の低気圧が、前線を伴い北東進。前線は、日本の東から小笠原近海へのびている。日本の南の高気圧が東へ移動し、この高気圧と低気圧との間で気圧の傾きが急となり、北日本では、20m/s以上の風を観測し、北日本太平洋側沿岸では、3m以上の波高を観測。

② 500hPa 5700m付近の正渦度極大域に対応した前線を伴う低気圧が華中を東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の北海道東方海上の低気圧は、4日朝にかけて千島近海を通りオホーツク海へ北上し、前線は日本のはるか東へ進み、日本から遠ざかる。1項②の華中の前線を伴う低気圧は、3日夜にかけて日本海西部へ進み、前線は西日本から東シナ海へのびる。500hPa 5460～5640mの-21℃以下の寒気を伴う中国東北区のトラフが、3日夜にかけて深まりながら黄海付近へ南下し、4日夜にかけて日本海へ進む。日本海西部へ進む低気圧は、このトラフに対応して発達しながら、4日朝にかけて対馬海峡付近を通り秋田沖へ進む。前線は、3日朝から4日朝にかけて閉塞しながら、西日本から南西諸島付近を通り、北日本から東日本へ進む。閉塞点から発生した新たな低気圧が4日朝にかけて、北海道南方海上へ進む。低気圧や前線に向かう850hPa 相当温位 336K以上の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨の降る所がある。東～西日本では3～4日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。沖縄地方では3日にかけて、落雷等に注意。低気圧の影響で、非常に強い風が吹き、しける所がある。北日本では2日は、暴風に警戒し、西日本では3日は、暴風、高波に注意・警戒。北～東日本では3日にかけて、西日本では3日は、強風、高波に注意。

② 4日は、2項①の秋田沖へ進む低気圧は、4日夜にかけて北海道付近へ進み、その後、不明瞭化する。2項①の北海道南方海上へ進む低気圧は、4日夜にかけて、北海道東方海上へ進み、前線は日本の東から日本の南へ進み、日本から遠ざかる。4日朝までに華中付近で高気圧が発生し、東シナ海へ移動する。この高気圧と低気圧の間で気圧の傾きが急となり、非常に強い風が吹き、しける所がある。全国的に4日は、強風、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時から24時間)：九州北部・九州南部120mm。 ② 波浪(明日まで)：北海道4、東北・伊豆諸島・東海・近畿・四国・九州北部・九州南部・奄美3m。 ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。